

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	150分
-----	--------------------	------	------

全体の構成を捉え、それぞれの問の根拠となる文脈を正確に把握する基本問題と、本文全体の問題意識と論旨の把握を要する最後の問題。
 東北大第一問に典型的な出題である。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	「AIの手を掴むくらいなら溺れて死ぬ」(松井哲也)
頻出度合 ・的中等	稀だと考えられる。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問一	書き取り	やや難	(5)「鑑」か「観」かの判断が難しい。
		問二	論述	やや難	「郡司ペギオ幸夫」から始まる二段落を要約する。
		問三	論述	標準	傍線部直前の一文が解答の軸になる。
		問四	論述	難	傍線部に後続する二段階の対比の内容を要約する。
		問五	論述	難	「AIと向き合った時の人間の生き方のヒント」が主題であり、神なき時代に、超越的な外部=異類としての役割をAIに期待するというのが結論である。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

段落の構成に基づいた、ていねいな要約を作成するなどして、一つ一つの文脈の理解と、主題に対する結論及びそれに至る論理のプロセスの把握とを心がけること。

国語(現代文)

東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部(文系) (前期) 2/4

<総括>

出題数	現代文	2題・古文	題・漢文	題	試験時間	150分
-----	-----	-------	------	---	------	------

登場人物の言動からその内面を読み取る問と、比較的、示唆的な表現を含意を明らかにする問い。評論と同様、小説も東北大第二問に典型的な出題である。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『剛心』(木内昇)
頻出度合 ・的中等	それほど見かけない。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	小説	問一	記述	標準	「文脈に即して」に注意。端的な意味の記述ではない。
		問二	論述	標準	「同僚たち」の「陰険さ」に対する「嫌悪」など。
		問三	論述	やや難	何から、どのようにして「救われている」のか。
		問四	論述	やや難	問われているのは、ここでの比喩表現の「意味」である。
		問五	論述	難	「え？」は思いがけなさ、驚きの表現だろう。夫の仕事は、妻のひそかな思いに応えるものだったのである。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

登場人物がその場面場面で、どのような内面を持っているか。
その文脈を追いながら読みすすめる練習を重ねたい。

国語(古文) 東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部(文系) (前期) 3/4

<総括>

出題数	現代文 題・古文 1題・漢文 題	試験時間	150分
-----	------------------	------	------

久しぶりに、本格的な中古の文章からの出題。前書きから登場人物の関係や状況を把握した上で、正確に内容を読み取る必要がある。その上で考えたことを指定字数内でまとめる表現力と文章力も含めた国語の総合力を問う良問。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	源氏物語
頻出度合 ・的中等	頻出出典ではあるが、近年の東北大学としては稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	物語	問一	記述	やや易	重要古語の意味と文脈をおさえる。
		問二	記述	やや易	典型的な古文の解釈問題。文脈を踏まえて、必要な言葉を的確に補う。
		問三	記述	やや難	文脈から詠み手を把握し、大君の心情を正しく読み取る。
		問四	記述	難	人物関係を把握し、直前のカギ括弧で示された行動が誰のもので、どんな意味を持つかを検討する。
		問五	記述	やや難	直前に示された心情を正しく読み取ってまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年は平易な文章が続いていたが、徐々に平安時代の本格的な古文であった。古文の基本的な学習を徹底し、基礎的な知識と正確な読解力を身につけることが、まずは必要である。さらに、指定字数内にまとめる力も問われているため、考えたこと、読み解いたことを表現する力を養う必要もある。基本的な単語と文法の学習の上で読解力を身につけ、表現力を培う学習が求められる。

<総括>

出題数	現代文 題・古文 題・漢文 1題	試験時間	150分
-----	------------------	------	------

本文は四つの部分に分かれる。まず朱某が仙人から占い書を授かり占いを生業としたこと、次に慕天顔の依頼で呉三桂の反乱を予言したこと、そして朱某の子も占いの能力を有し武字に基づき依頼者に子ができないと占ったことを記し、最後に朱父子の占い書がなくなったことについて筆者の所感を述べる。なお六行目に現れる「王」の地位は受験生にとって想像することがやや難しかったかも知れないが、「或」は受験漢文における重要語なので、正しく「あるいは」と訓めるようにしておきたい。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	銭泳『履園叢話』
頻出度合 ・的中等	しばしば受験問題で用いられる出典である。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	随筆	問一	意味	標準	(2)の「後」の解釈は前文を読み込み「後裔」の意味だと理解する必要がある。
		問二	書き下し	標準	(ア)は後文との接続にも注意する必要がある。
		問三	口語訳	標準	「減」の訳語は、文脈に即した適切な表現になるよう注意しなければならない。
		問四	内容説明	標準	三行目から傍線部に至る部分をよく読んで「之」を具体化すること。
		問五	内容説明	やや難	「武」字の形を踏まえて、設問箇所の後との関連について思考することが求められる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

特定の出典にこだわらず、多様なジャンルに対応できる総合的学力を養うべきことは例年と変わらない。問(一)問(二)(イ)問(三)のような問題で着実に得点するために、重要語・句形といった基礎的知識を充実させるべきことは言うまでもない。さらに、東北大学は問(四)のように、代名詞の具体化もしくは主語・目的語を補った説明を求めることが往々にしてある。したがって、設問箇所の前後にしっかり目配りしながら解答を作成する姿勢が必要である。また今回の問(四)(五)がそうであったように、字数の多寡に関わりなく読解した内容を適切に表現しきる能力が必要になるので、日常的な解答作成の訓練が必要になる。